

昭和八年後期に於ける市電従業員の労働運動

一、はじめ

東京交通労働組合内紛困乱の一年、妥協と方向転換に依りて漸く解消せられた。

昭和八年非常時現下に於ける、我黨無産政黨並に労働組合は、嘗て見ざる萎縮と無力さを經驗せしめられた。非合法極左分子は地下に潜入して拾頭の機を剽奪さして終った。

全く労働組合自身その統一の未完成と空實の不足が露呈して、その方針に就いて再認識再考察の要を認めざるを得ない情勢に迫せしめられた様だ。

非常時の波に果つて、ナシヨナリズム謳歌の聲に労働組合の内部から聞えて来る、労働者は組合運動に對する熱意と信頼から遠ざかりつゝ、ある。職業的労働運動者の影は殊更寡くた。彼等は反省と再起に慥しい焦慮を感じたのである。

十月から十一月に亘つて聞かれた幾多労働組合の年次大会は、斯る情勢の清算であり労働組合更生の新方途確立の契機となつた。斗争第一主義から協調主義へ、政治斗争から経済斗争へ、所謂分